

第26期<2019.10.1~2020.9.30>活動報告

■ 1年間のまとめ

第26期は引き続き次の6つの課題を掲げて活動しました。

- 1) 各部会の活動により、歴史的建造物の保存・活用に対する所有者支援や建造物の文化財登録を推進します。
- 2) 次世代に引き継ぐため、会の活動を整理し、組織強化を進めます。
- 3) 見学会・講習会・シンポジウム等を開催し、古建築や再生建築の良さを市民等に普及・啓発します。
- 4) 会員の相互交流を強め、併せて、国や地方行政機関を含む関連団体との連携を図ります。
- 5) 財務活動を柱にNPO法人の運営能力を高めます。
- 6) 「京都市文化財マネージャー育成講座(建造物)」を事務局団体として継続開講します。

古材文化の会の26期の活動は、この6つの課題を基本に行いました。

しかし、今期の特徴は新型コロナウイルスの感染拡大により大幅に会の活動が制限されたことです。2020年2月から広がったコロナ禍は世界規模で感染が拡大し、アジアでは沈静化していますが、アメリカやヨーロッパ等では治まっていません。日本でも冬期に向けて感染の再拡大が懸念されています。新型コロナウイルスの感染拡大は社会生活と経済活動に大きな変化をもたらしました。

まだ、その収束時期すら見通せない中ですが、ポストコロナの新しい社会の模索が始まっています。一般化したZOOMなどオンラインでの意見交換や学習、グローバルからローカルへの意識の変化、都市から農村への人の移動などがあげられます。

古材文化の会の活動においてもコロナ禍で活動が制約される中、イベントの開催を中止したり、参加人数を制限したり、リアルとオンラインを組み合わせたり、手探りで活動を行ってきました。しかし、コロナ禍のため活動は十分には実施出来ませんでした。

■ 部会等の活動報告

(1) 利用相談部会+古材文化の会設計室

- ①利用相談部会は、古い建物の再生や古材の利活用などの相談に応じる部会で、現在14名の部会員で構成しています。利用相談の依頼に対して毎月の定例部会で協議し、「古材文化の会設計室」と共同して対応を行っています。

2019年度の建物の保存活用等に関する問い合わせは、部材提供を含めて8件ありました。現在、伊丹市での住宅改修に伴う設計監理、また古材文化の会設計室では京都市有形文化財となっている建物の保存修理、泉大津市での寺院改修に伴う設計監理などの業務を行っています。今年6月には設計監理を委託されていた登録有形文化財の住宅の改修工事が無事完了しました。

- ②定例部会では、利用相談物件の管理を行いながら、それぞれの相談物件について意見を出し合い、担当者を選定して現地確認や相談者との面談など、適切な対応を検討しました。
- ③利用相談部会員を対象に、登録有形文化財の改修工事現場の見学会を実施しました。

(2) 企画部会

- ①企画部会は一般市民が気軽に参加できる企画を中心に実施しています。
- ②全国集会はコロナ禍のため企画できませんでした。
- ③10月から「古材文化の会ふで文字じかん」を概ね月1回Aotakeで開催。
- ④10月から平安神宮前広場「平安蚤（ノミ）の市」に有志で月1回出店。
- ⑤10月26日茶寮 aotake 文化講座「町家の庭の改修に学ぶ」を開催。
- ⑥11月17日、23日、24日に宇治市松殿山荘で「古道具と手仕事市」を開催。
- ⑦12月21日にまちセンで住まいの学校「しめ縄づくり」を開催。
- ⑧2月1日茶寮 aotake 文化講座「古建具活用講座」を開催。
- ⑨8月4日に東山区大和大路で「コロナ禍における京の民泊の現状」を開催。
- ⑩8月29日京都市南区の長谷川家住宅で「ぶんぶんカフェ」を開催。
- ⑪9月19日20日に京都市北区原谷の倉庫で「古材市・大処分市」を開催。
- ⑫所有者からの依頼により古建具、古道具の引き取りを随時行いました。

(3) 見守る部会

- ①見守る部会として正式に発足し、3年を経過しました。
- ②昨年より3件増えて、13件の建物を「見守るネット」に登録いただき、「修理」、「活用」、「継承」などそれぞれの抱える課題について、担当マネージャーを中心に対応を行っています。
- ③左京区T家では、ファサードの改修し昔の姿に戻ったことで、景観重要建造物や京都を彩る建物や庭園の認定となりました。また周辺の「志賀越道おさんぽ MAP」を作成し、今後地域のまちづくりへの展開が期待されます。
- ④伏見区F家では、屋根・外装・耐震などの大規模な改修工事が完了し、今後活用に向けた検討が進められています。
- ⑤4年目を迎え、その活動の広げ方を検討しているところです。その発展形の一つとして、「見守るネット」の地域版の可能性を検討しています。

(4) 古材文化の会伝統建築保存・活用マネージャー会＝愛称KOMOMO

- ①毎月定例会を開催し、各プロジェクトの活動報告や協議、見学勉強会の案内などをおこなっています。その後、これまでに伝統建築保存・活用マネージャー養成講座や、京都市文化財マネージャー育成講座を修了された方にお越しいただき、(過去の修了

レポート発表)と題して45分間程度お話頂いております。定例会では、その他にもKOMOMEMBERや外部の講師などを招いて、1時間程度のミニ勉強会をおこなっています。

- ②「全国ヘリテージマネージャーネットワーク協議会」の運営委員として参加し、全国の他団体との交流や情報交換を行っています。令和2年11月開催予定だった広島大会は次年度に延期になりましたが、各団体で動画を作成して、インターネットを通じて交流を図る取り組みを進めています。

また、近畿二府四県の活動団体と連携を取るべく、3カ月に一度「近畿ヘリテージマネージャー準備会」を開催しています。当会の理事でもあり、京都府建築士会ヘリテージマネージャー委員会の熊田委員長にも参加頂いております。常時、非常時に関わらず、情報の共有や勉強会などを一緒に勧めて行けたらと考えております。

- ③今年度も引き続き「京都市文化財マネージャー育成講座(第12期)」のサポートを、西川リーダーを筆頭に10数名のメンバーで行っております。しかし新型コロナウイルスの影響で12期は途中で1年間延期となりました。

- ④毎月第1木曜日にKOMO部会を開催し、定例会での協議事項や進行中のプロジェクトの進捗状況等について話し合っています。

- ⑤メンバーの自発的なプロジェクトを行っています。それぞれのメンバーが企画、会場や講師の手配、案内、予算組などを行い、多くのメンバーに参加して頂いております。現在は下記のプロジェクトが進行中です。

◇古文書勉強会 ・主に明治期の(普請方金渡帳)などを読み解くべく、月に一度日向会長をはじめ講師の方や池田さちよ世話人にご尽力いただいております。

◇おおさかKOMO ・主に大阪各地の歴史や建造物を学びながら、情報交換なども行っています。笠原理事にお世話になっており、現在は企画も募集されております。

◇講座のサポート ・事務局だけでは講座運営が手一杯なので、毎年西川リーダーにご尽力いただき、サポートメンバーの配置や日程調整などを行って頂いております。

◇落語研究会 ・落語を通して江戸時代などの市井の暮らしや習慣、建物等についても研究し、メンバーで楽しみながら勉強を進めています。

◇KOMOライダーズクラブ ・全国47都道府県を訪ね、ヘリテージ活動団体と交流を持ち、各地にひっそりと残る歴史的建造物を見学、地域の歴史も学ぶ。2025年には1冊の報告書をまとめるべく、有井世話人にクラブ発足に向けてご尽力頂き進めています。

◇西京区地域力サポート事業 ・昨年度に引き続き今年度も事業を受託し、地域の建造物や路地などを巡り雄ながら、由緒や沿革を学ぶ。と同時に、プロカメラマンから写真撮影の仕方も教わり、最終日には区役所大会議室にて報告会を開催する予定です。

- ⑥9月に「KOMOフェスタ2020」を開催予定でしたが、新型コロナウイルスの感染予防のため、次年度に延期をしました。

(5) 歴史ある建物調査室

歴史ある建物調査室(歴調)では、第26期の活動計画として、「登録文化財や景観重要建造物の申請に関わる調書作成、また、市町村からの委託調査を行う」という2点を掲げていました。

- ① 25期に引き続き、“京都を彩る建物や庭園”制度における認定候補建物調査(京彩調査)を行い、昨年度末(一部は今年の6月)に平成31(令和元)年度調査契約9件のうち8件の報告書を提出し、そのうち7件を、また任意案件1件を9月の審査会に諮り、認定を受けています。

契約案件の提出済み1件については、12月の審査会にて認定される予定です。未提出1件については、最終提出にむけて対応中です。

また、9月より令和2年度調査9件に着手し、取り組んでいます。

- ② 今期9期目を迎える京彩調査の委託調査事業において、10期目の節目にむけて、過去の認定調査のアーカイブをまとめるべく、作業を進めています。また、認定調査の増数や委託費用の増額などの協議に着手しました。
- ③ 京都府立文化博物館で開催された「辰野金吾没後100年 文博界隈の近代建築と地域事業」において、姉小路界隈を考える会等から依頼を受け、同界隈に集積する京都彩る建物や庭園制度の選定・選定建物について解説展示パネルを作成し、まち歩きを実施いたしました。

(6) 年輪年代学研究所

- ① 「年輪年代学研究所」は、使用部材の年輪年代法による年代測定や使用木材の樹種同定を行う研究所です。建築年代の不明な建造物の年代判定や木材同定について所有者等から委託を受けて調査をしています。

- ② 26期は、会への調査依頼はありませんでした。

(7) 第12期京都市文化財マネージャー育成講座(建造物)

- ① 「京都市文化財マネージャー育成実行委員会」の主催で、「第12期京都市文化財マネージャー育成講座(建造物)」を開催し、全14回のうち第7回まで講座を実施しましたが、新型コロナ禍のため第8回以後の講座及びビギナーズ講座を延期しました。例年どおり古材文化の会が講座の事務局を担当し、マネージャーの有志が講座の運営を支援しました。

- ② 「京都市文化財マネージャー育成実行委員会」に一般社団法人京都府建築士会が加わり、京都市、公益財団法人京都市景観・まちづくりセンター、特定非営利活動法人古材文化の会とともに四者による主催となりました。

(8) 京都府文化財支援コーディネーター養成講座

①京都府、京都府教育庁、一般社団法人京都府建築士会、特定非営利活動法人古材文化の会の四者からなる「京都府文化財支援コーディネーター養成実行委員会」の主催で、「京都府文化財支援コーディネーター養成講座」を開催しました。講座の目的は、歴史的建造物をはじめとした文化財を保存・継承するための専門的知識を有する人材の養成です。

2019年11月17日、12月14日及び15日の3日間（延べ15時間）宮津市で開催し、28名の受講者が参加しました。講座の事務局を古材文化の会が担当し、特定非営利活動法人天橋作事組の後援を得ました。

